

経営比較分析表（令和3年度決算）

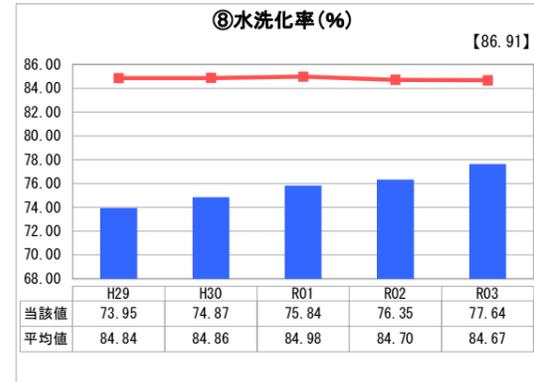
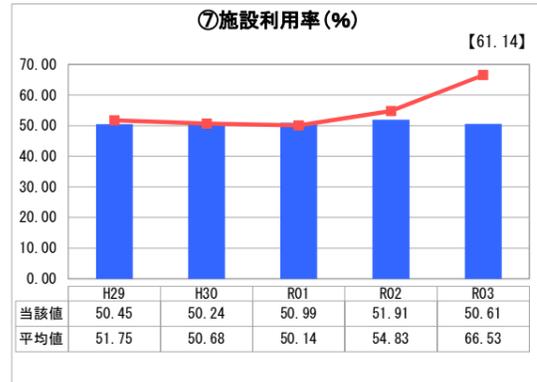
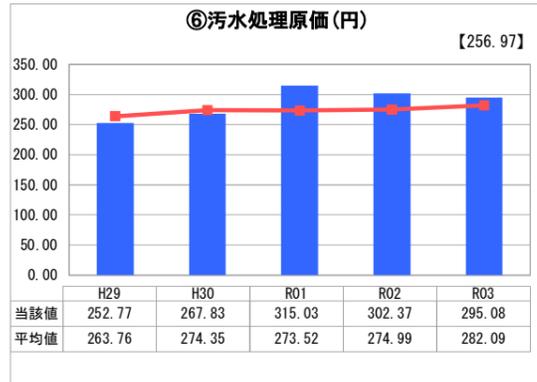
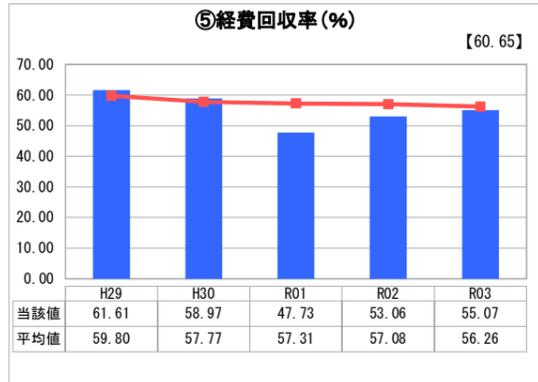
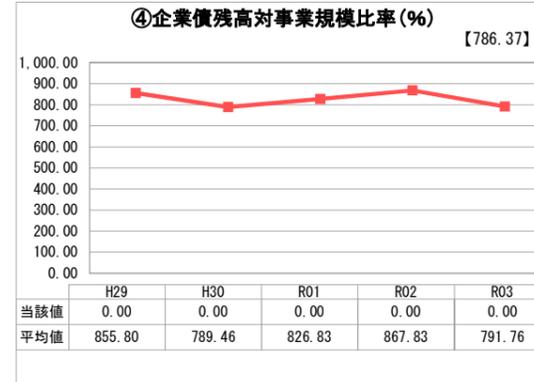
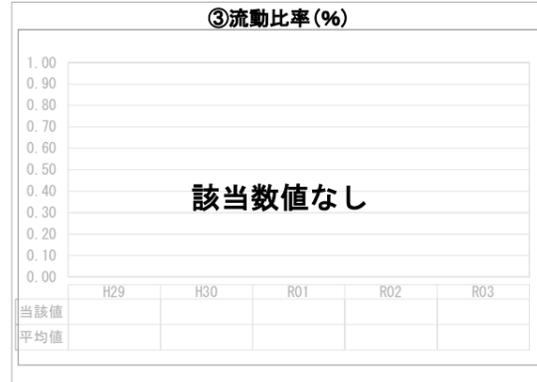
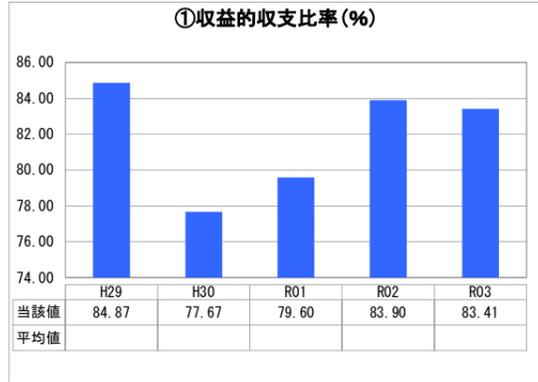
埼玉県 加須市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	11.13	97.74	3,544

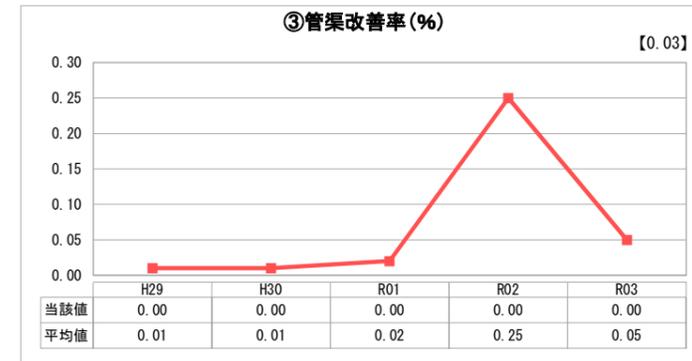
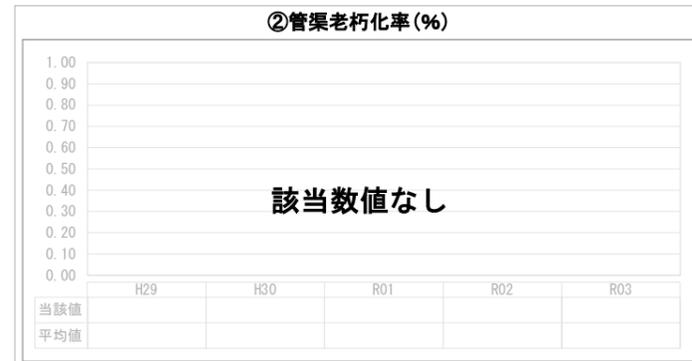
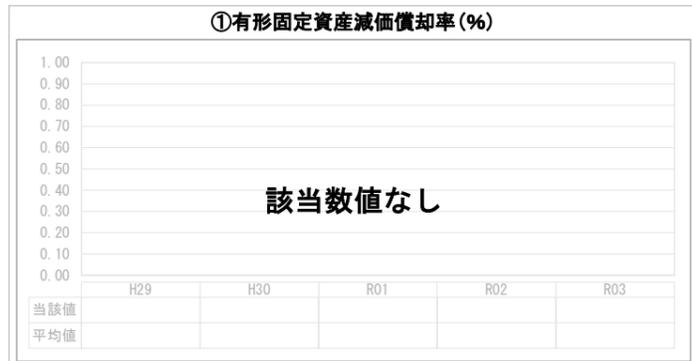
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
112,235	133.30	841.97
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,459	5.54	2,248.92

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率
総収益の額では総費用と地方債償還金を合算した額は賄えていない。これは償還金の額が大きいことによる。前年度に比して、総費用の額が減少し、地方債償還金は増加しており、これらの合計額が減少した結果、収支比率は0.49%の減少となっている。
- ④企業債残高対事業規模比率
比率値は0%となっているが、一般会計からの繰り入れが必須となっている状況である。
- ⑤経費回収率
経費回収率については近年低下傾向にあったが、R2・3と上昇に転じた。これは、コロナ禍により短期的に使用料収入が増加したことと考えられる。経費回収率の上昇のために、さらなる経営努力が必要である。
- ⑥汚水処理原価
汚水処理について経費節約に努めているが、処理施設の大規模修繕(R1~5)を実施しているため、平均値より高い水準で推移している。
- ⑦施設利用率
水洗化率が上昇しているため、近年においては利用率が微増傾向で推移している。令和2年度はコロナ禍により1件当たりの使用量が平年に比べ短期的に増加したが、令和3年度はやや落ち着き、施設利用率が1.30%の減少となった。
- ⑧水洗化率
水洗化率は微増傾向にあるものの全国平均には達していない。加入促進により、水洗化率の向上と施設利用率の向上を進める必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ③管渠改善率
当事業の供用開始は昭和60年度であり、耐用年数50年は経過しておらず、下水道管の更新はまだ行う必要はない。しかし、処理施設の機械設備等は適切な時期に更新・老朽化対策を実施する必要がある。

平成28年度には供用開始の一番古い名倉処理施設の改修工事を行った。平成29年度は二番目に古い伊賀袋処理施設の全体実施設計及び管路調査を実施し、平成30年度に同施設の改修工事を行った。

全体総括

当事業は16箇所の処理区を有しており、経営効率が高いといえない状況にある。一般会計繰入金への依存度が高く、この依存性をできる限り減少させるために水洗化率の向上等に努めるとともに維持管理費の削減に努める。
今後、経営状況を的確に把握するため公営企業会計の適用に取り組むとともに、公共下水道への接続や隣接する処理施設の統廃合等の検討を行い、令和6~7年度に最適整備構想として計画する。また、令和7年度に経営戦略を改訂し、最適整備構想を反映した新たな経営戦略に基づき、持続可能な経営を目指していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。